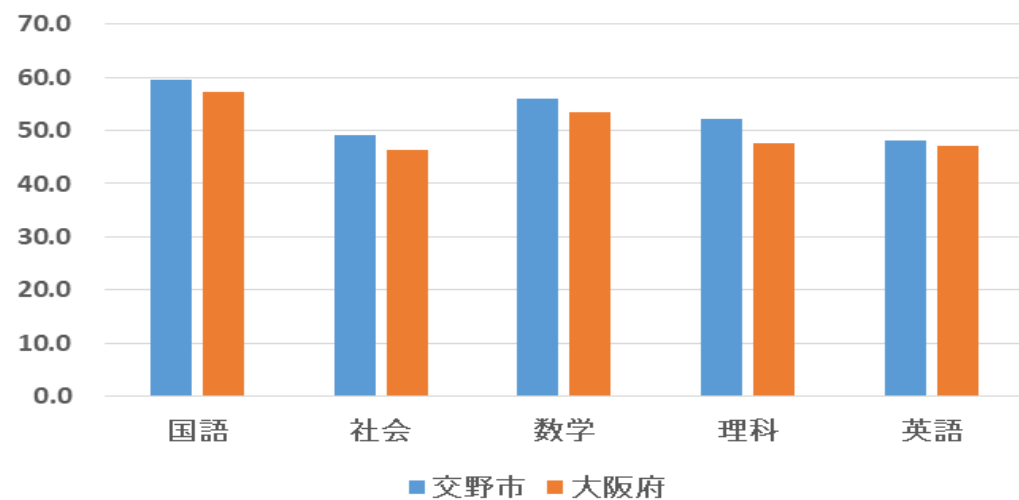


学年・教科別平均得点・対大阪府平均比較

令和元年度  
教科別平均得点

3年生	交野市	大阪府	交野市 -大阪府
国語	59.6	57.1	2.5
社会	49.0	46.2	2.8
数学	56.0	53.5	2.5
理科	52.2	47.7	4.5
英語	48.2	47.0	1.2

3年生平均得点



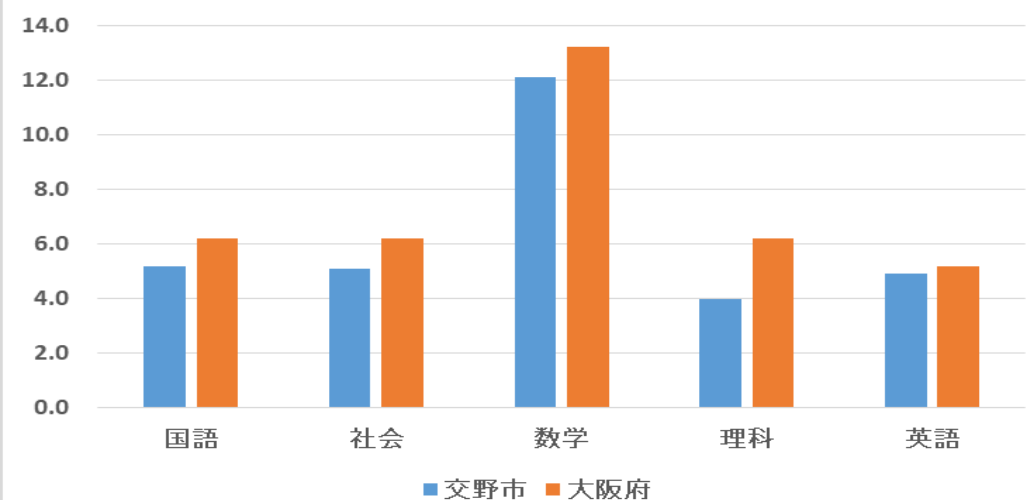
- 平均得点数においては、全ての教科において、大阪府平均を上回っている。
- 理科は大阪府平均を4.5ポイント上回った。
- 英語は、大阪府平均を1.2ポイント上回るのみとなった。

学年・教科別無解答率比較・対大阪府平均比較

令和元年度  
教科別無解答率

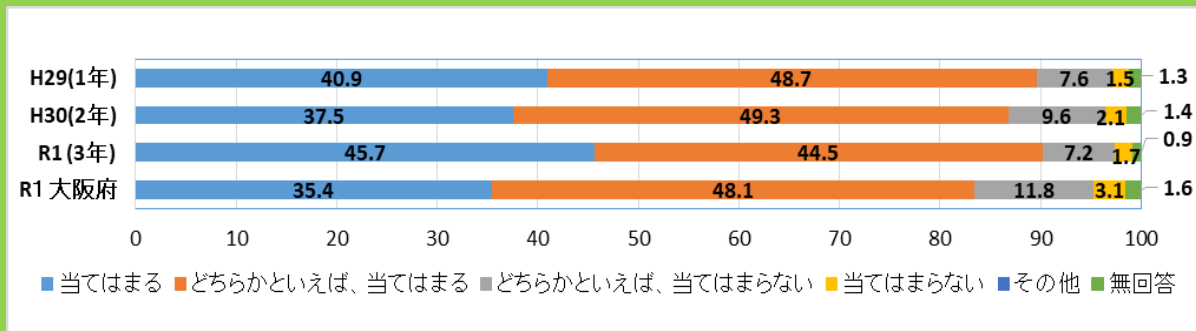
3年生	交野市	大阪府	交野市 -大阪府
国語	5.2	6.2	-1.0
社会	5.1	6.2	-1.1
数学	12.1	13.2	-1.1
理科	4.0	6.2	-2.2
英語	4.9	5.2	-0.3

3年生教科別無解答率

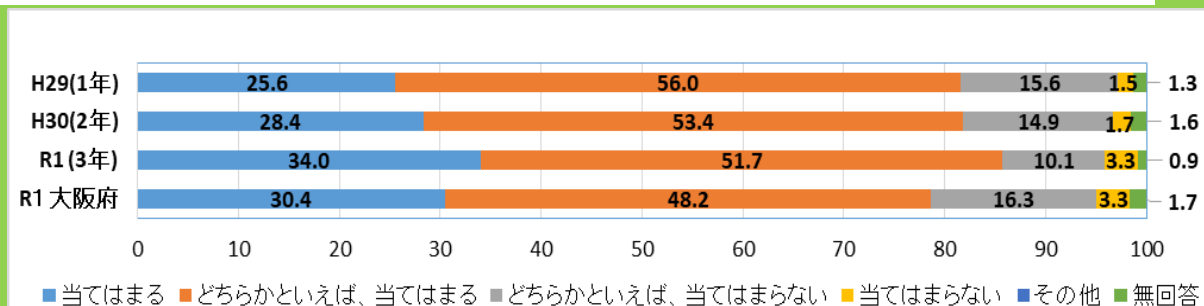


- 無解答率においては、全ての教科で大阪府の無解答率を下回っている。
- 数学の無解答率が大阪府平均と同様、高くなっている。

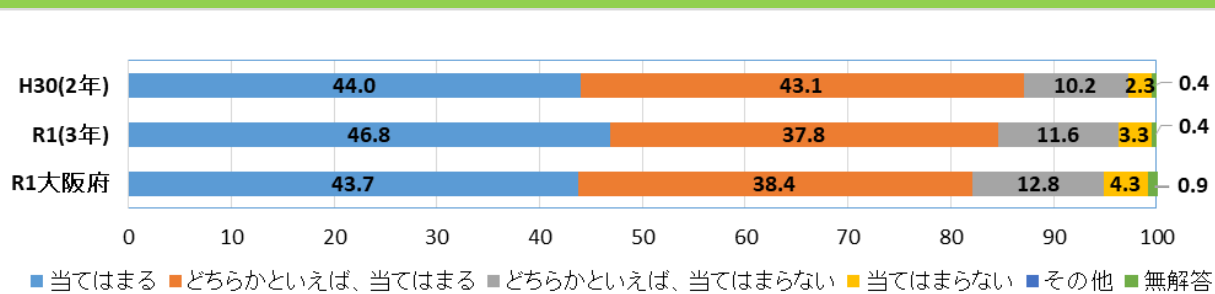
国語の授業の内容はよく分かる。



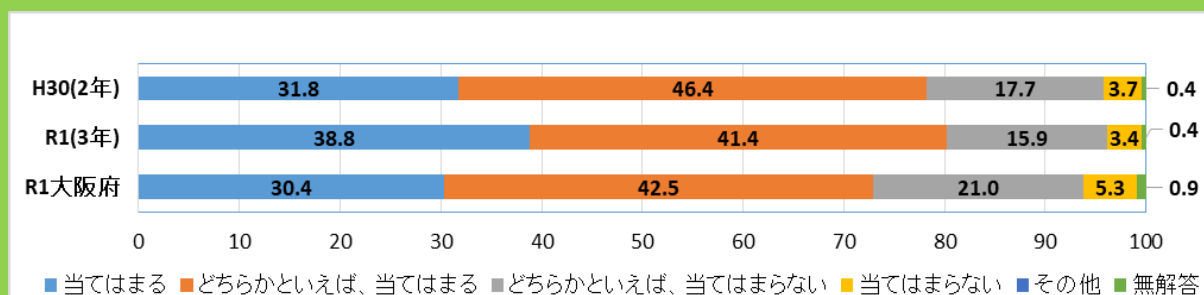
国語の授業で自分の考えを書くとき、考えの理由が分かるように気をつけて書いている。



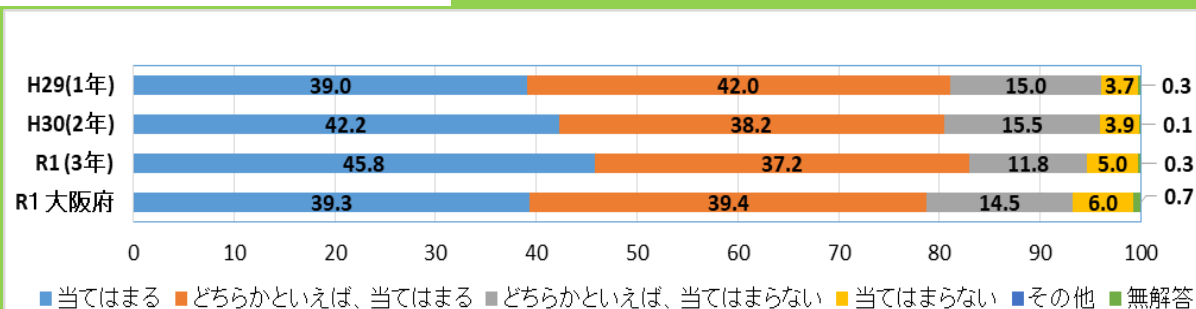
社会の授業の内容はよく分かる。



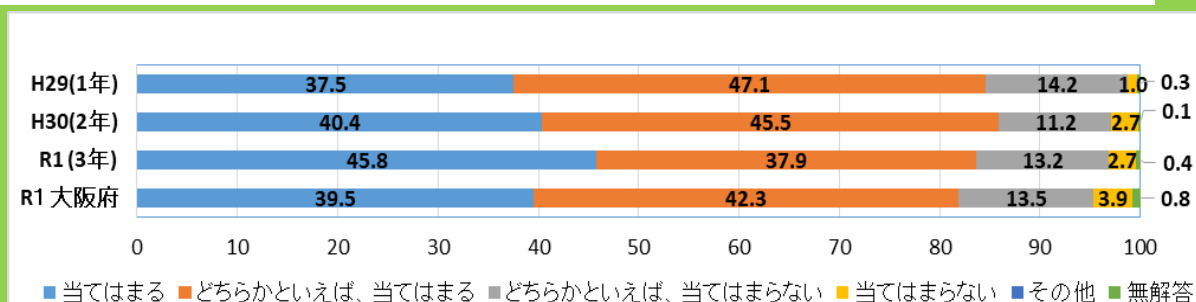
社会の授業で目的に応じて資料を読み、自分の考えを話したり、書いたりしている。



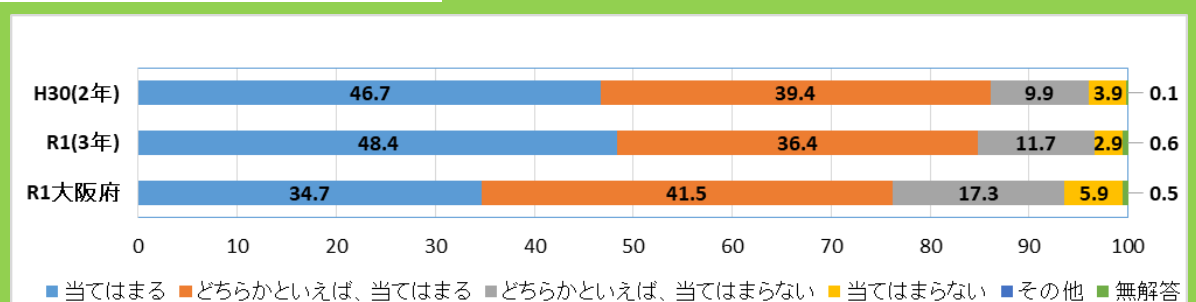
数学の授業の内容はよく分かる。



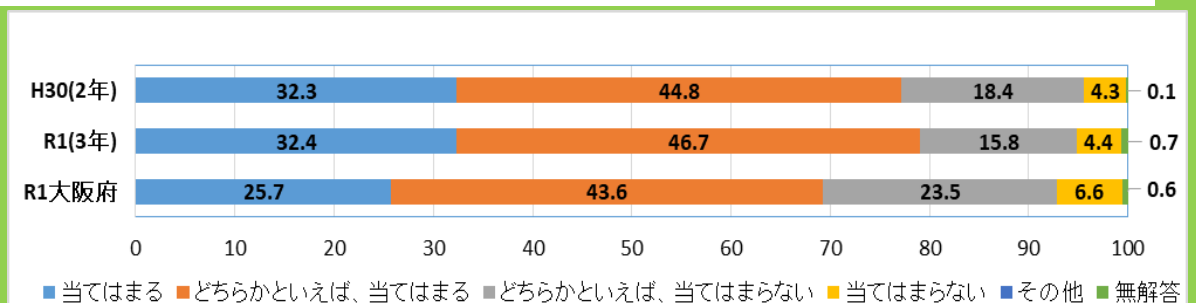
数学の授業で公式やきまりを習うとき、そのわけを理解するようにしている。



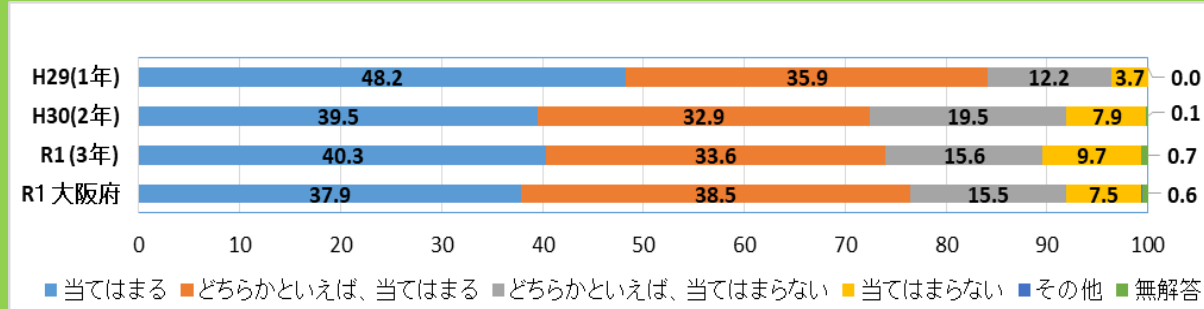
理科の授業の内容はよく分かる。



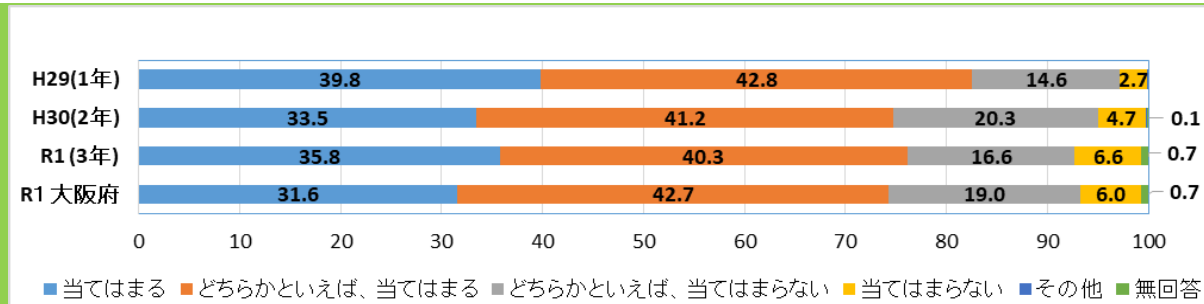
理科の授業で、自分の予想をもとに観察や実験の計画を立てている。



英語の授業の内容はよく分かる。

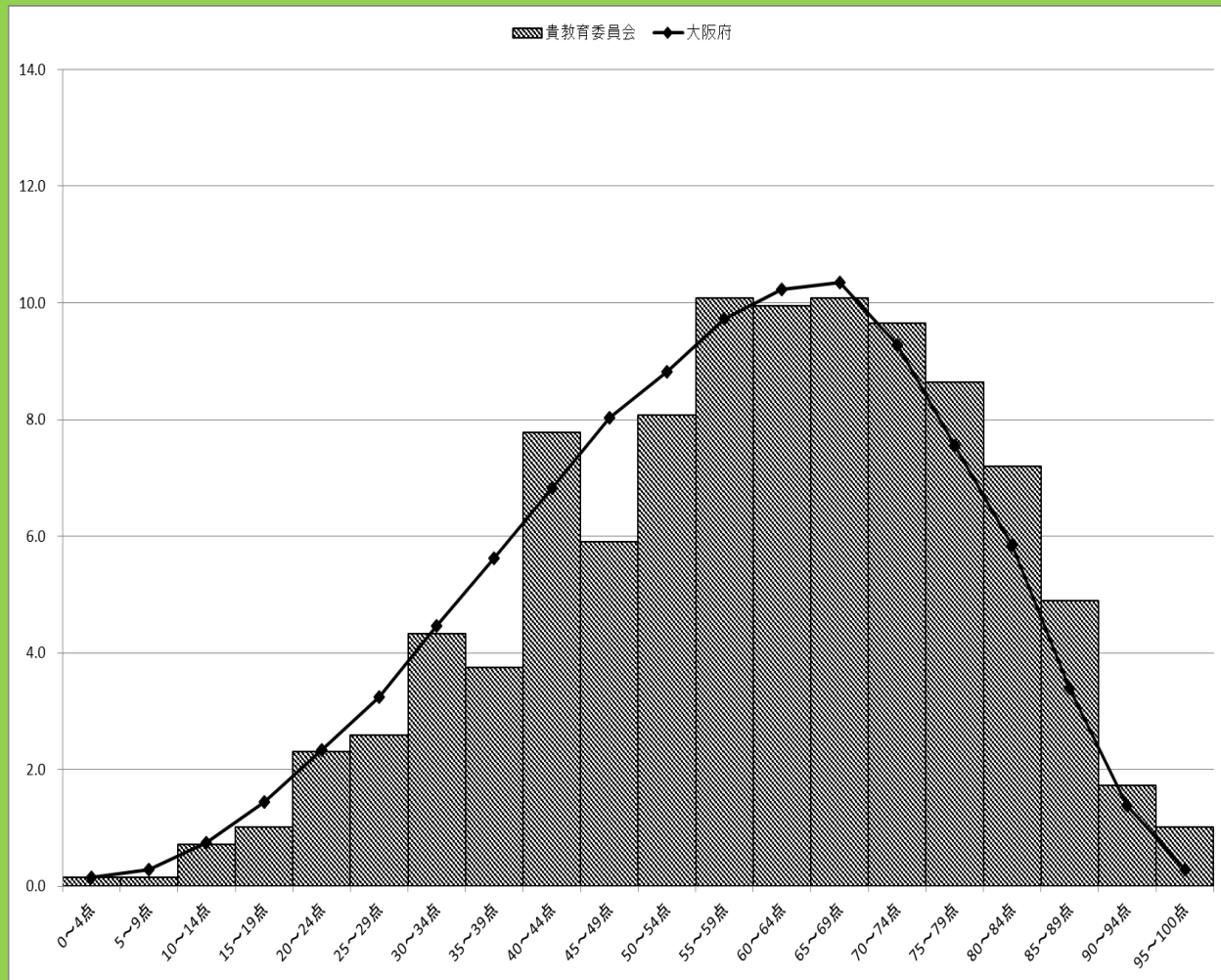


英語の授業で自分の考えを表現するとき、相手に伝わるよう工夫して話したり、書いたりしている。



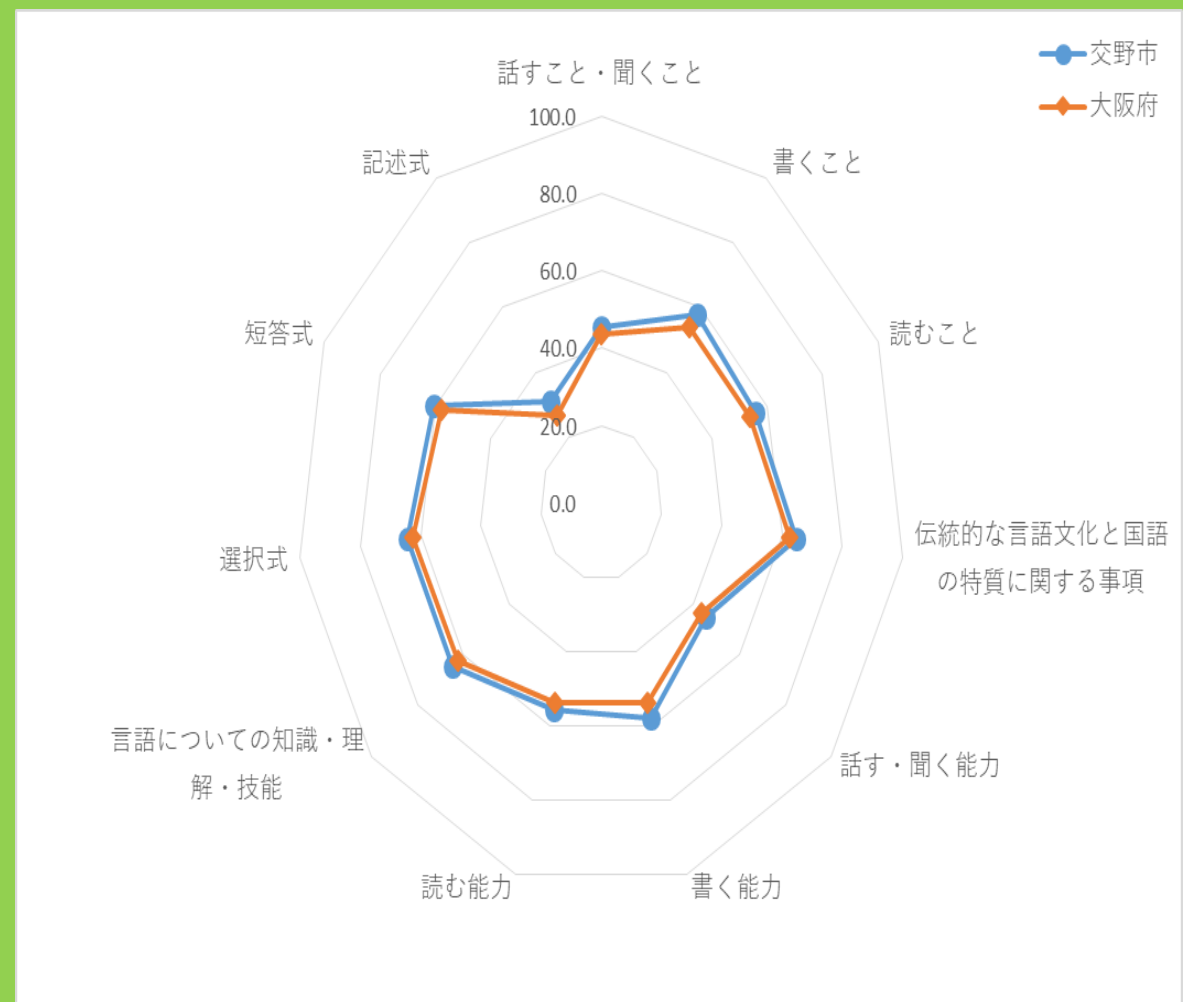
# 国語

## 得点分布



■大阪府の分布とほぼ同じ傾向となっている。

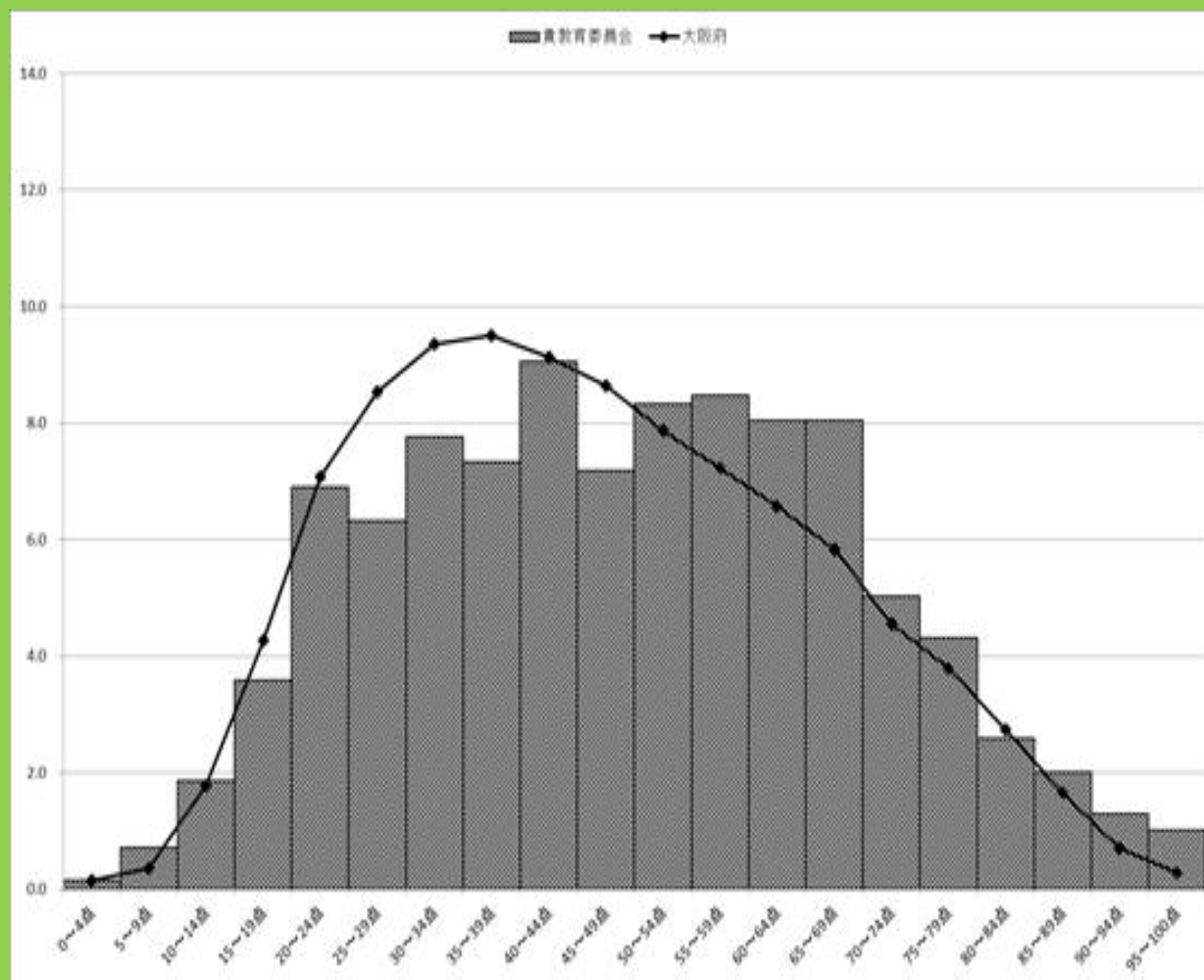
## 領域・観点・問題形式別 得点率



■大阪府とおおむね同傾向にある。  
 ■記述式、書くこと、書く能力で府平均の得点率を上回っている。  
 ■条件に従って、伝えたい事柄を明確にして50~80字程度で書く問題で無解答率も府比で低く、正答率も高かった。

# 社会

## 得点分布



■大阪府の分布よりやや右よりの山型になっている。

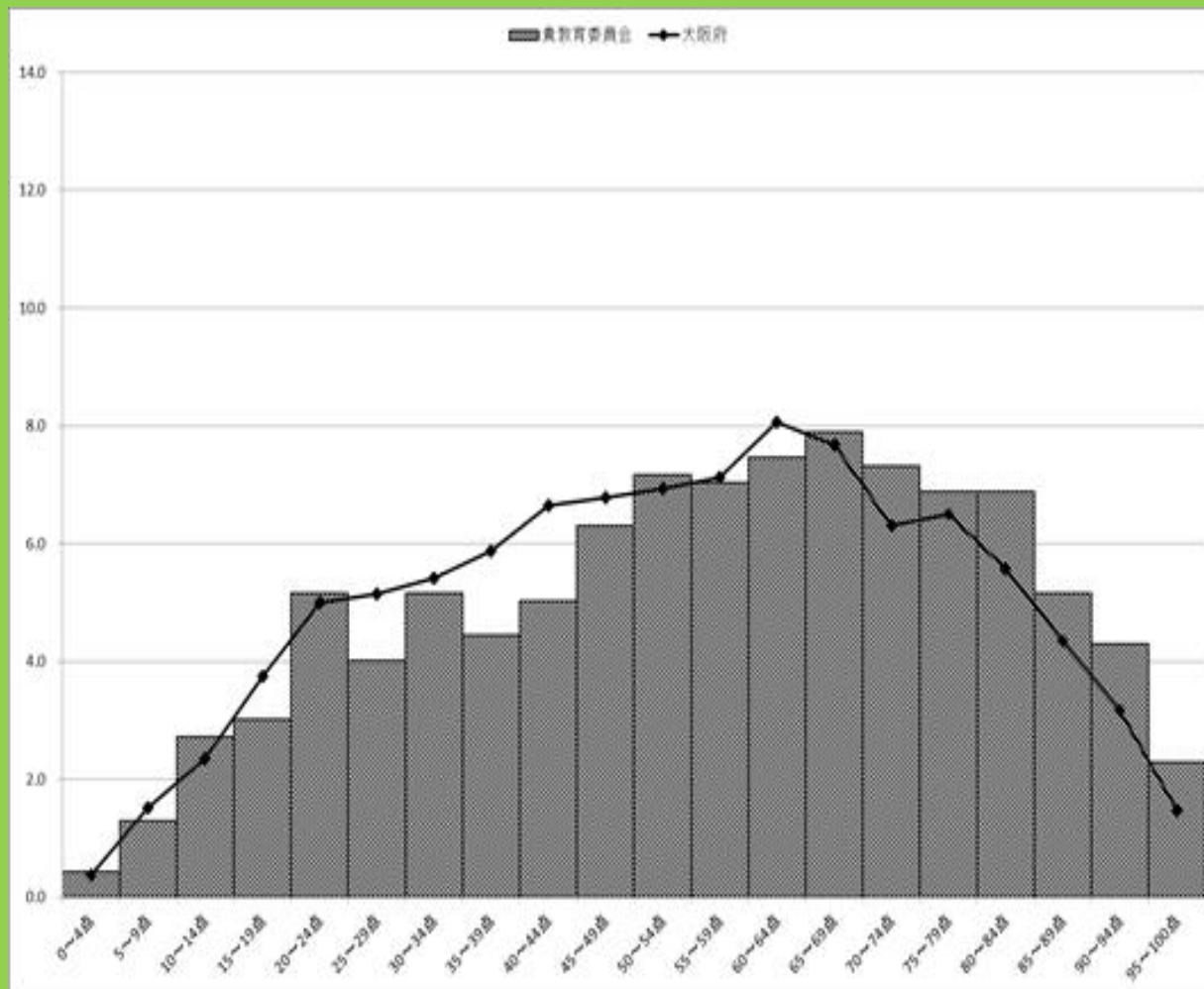
## 領域・観点・問題形式別 得点率



- ほとんどの領域において大阪府を上回っている。
- 特に短答式において得点率が高い。
- 歴史的分野では府比で正答率を大きく上回っている問題もあったが、地理的分野と思考判断・表現の問題では、大阪府平均を下回っているものもあった。

# 数学

## 得点分布



■大阪府の分布より右側に多く分布がある。左側はほぼ同じように分布。

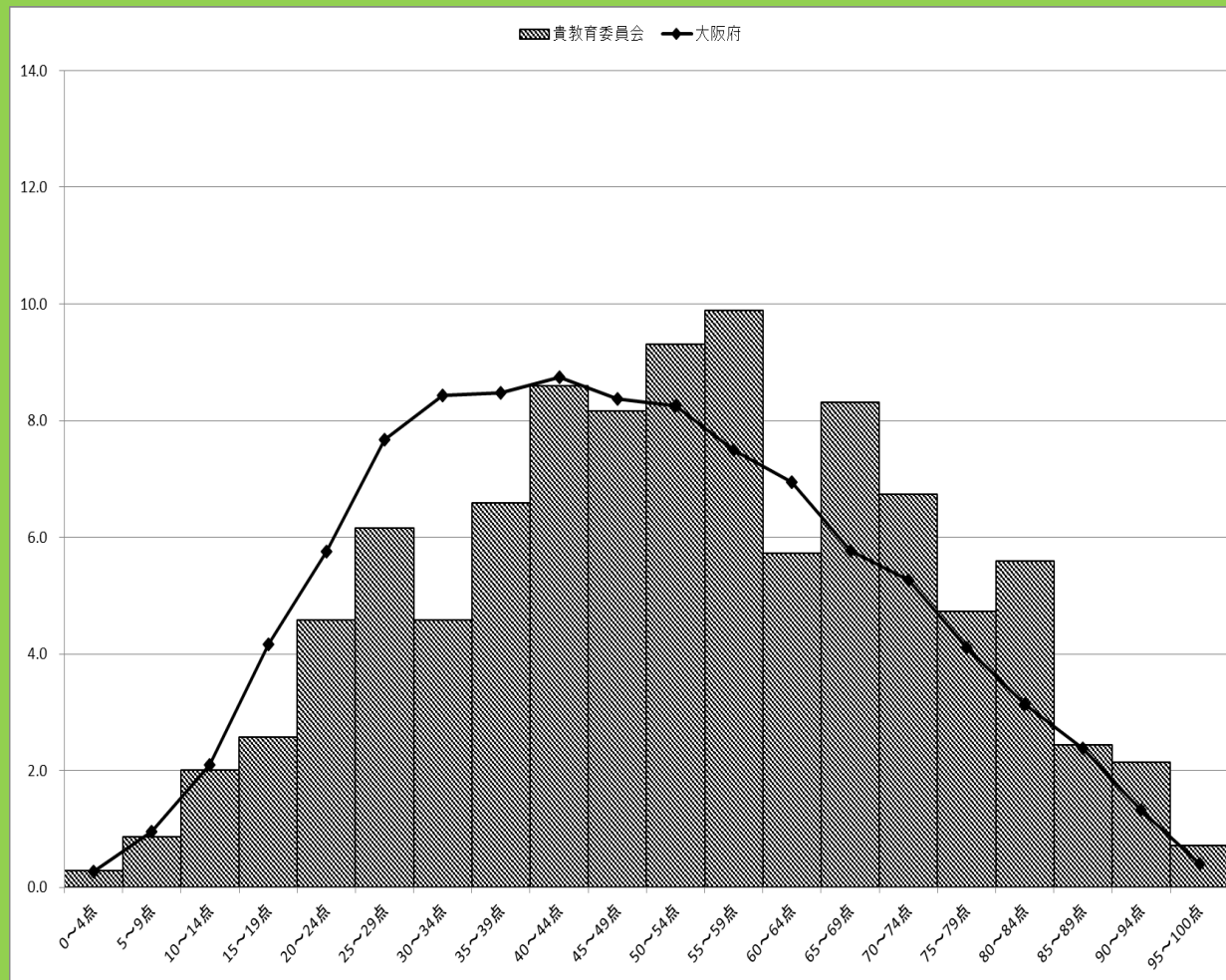
## 領域・観点・問題形式別 得点率



- 大阪府とほぼ同傾向である。
- 記述式の得点率が課題。
- 会話の中の事象を数学的に表す問題で、その文字式は書くことができても、それをどのように導いたかを説明する問題で高い無解答率となった。

# 理科

## 得点分布



■大阪府の分布より右寄りの山型になっている。

## 領域・観点・問題形式別 得点率

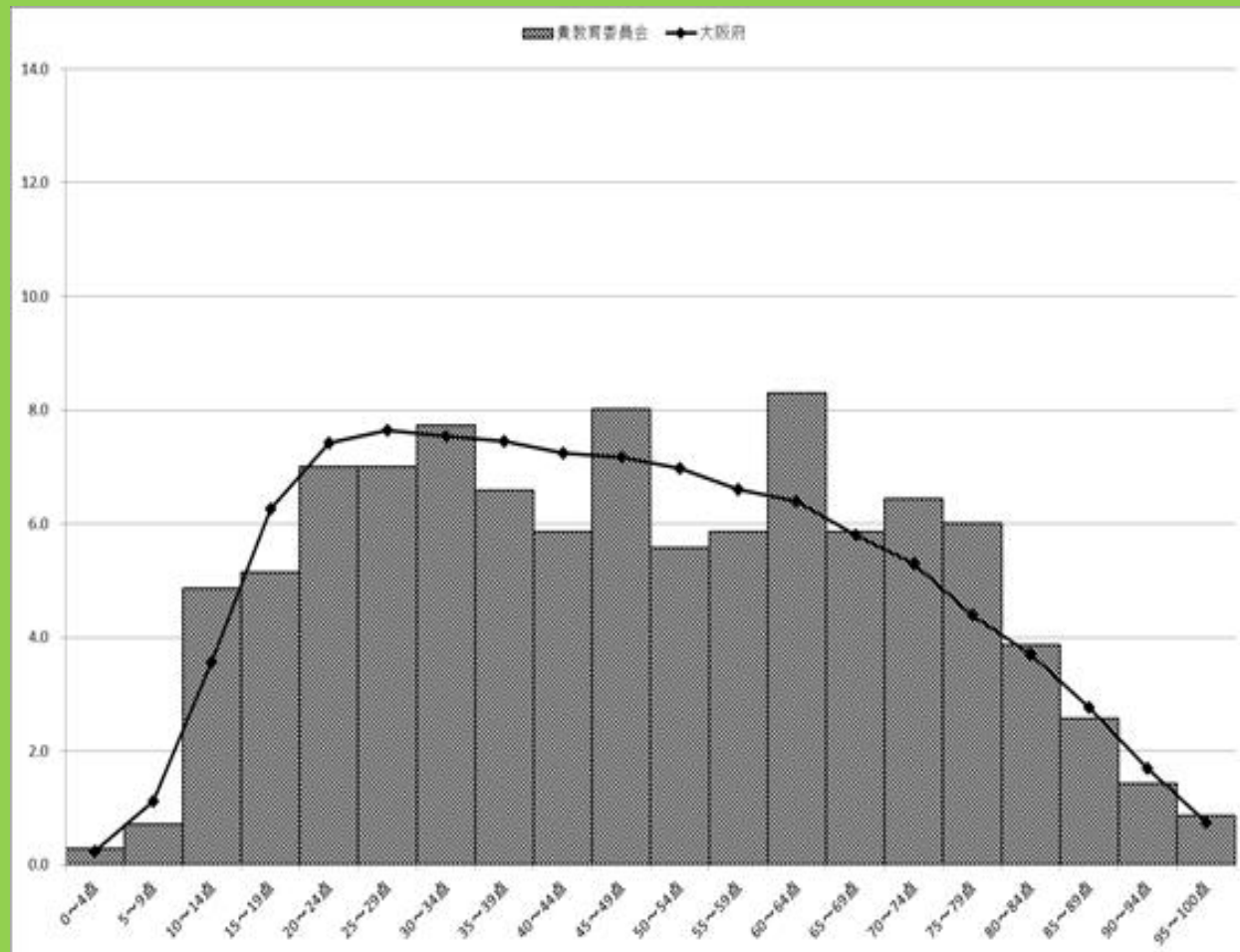


- すべての領域で府平均を上回っている。
- 観察・実験の技能において府との差があまりなかった。
- 実験用具の使い方など、1、2年生での既習項目で課題が見られた。



# 英語

## 得点分布



■大阪府とほぼ同じ傾向にあるが、右に突出している層が見られる。

## 領域・観点・問題形式別 得点率



- 大阪府とほぼ同じ傾向にある。
- 書くこと、外国語表現の能力、記述式で府平均を上回った。
- 会話文の中にでてきた英文を「なぜ、そう言ったのか」理由を日本語で答える問題(理解)で大阪府とともに高い無解答率であった。

# 【令和元年度 大阪府中学生チャレンジテスト（3年生） まとめ】

## 【課題】

- 全教科に共通して記述式の問題に課題があります。また、無解答率が高くなっていることが挙げられます。解答への道筋を組み立て、自分の言葉で考え、表現することにも課題があります。
- 知識理解の問題については高い得点率です。しかし、その知識を系統的に理解し、活用することに課題があります。

## 【課題解決に向けた取組み】 校内研究サポートプランにおける取組み

### （授業力の向上）

授業力向上に向けて、学校内全体で授業改善に取り組む研究体制づくりをサポートしています。子どもたちが自分の言葉で考え、表現し、伝えあう学びの場を設定するために、PDCAサイクルで授業改善を進めています。

### （言語活用力向上に向けた取組み）

「主体的・対話的で深い学び」の実現のため、授業の中で自分の考えを他の児童・生徒と共有する機会やふり返りの時間をきちんと確保することで、自分の考えだけでなく、他者の考えにも触れ、考えを整理し、まとめる力を養っていきます。

## 【小学校での取組み】 小学校定期テストの実施

小学校5, 6年生においても、統一した問題形式での定期テストを行い、児童の学習内容の定着と個々の学びのつまづきを見取っていきます。小学校から定期テスト形式に慣れることによって、中学校へのスムーズな学びの接続や家庭学習への意識づけにつなげ、テストにおいてこれまでの積み重ねが発揮できるように取組みます。